

経営比較分析表（令和4年度決算）

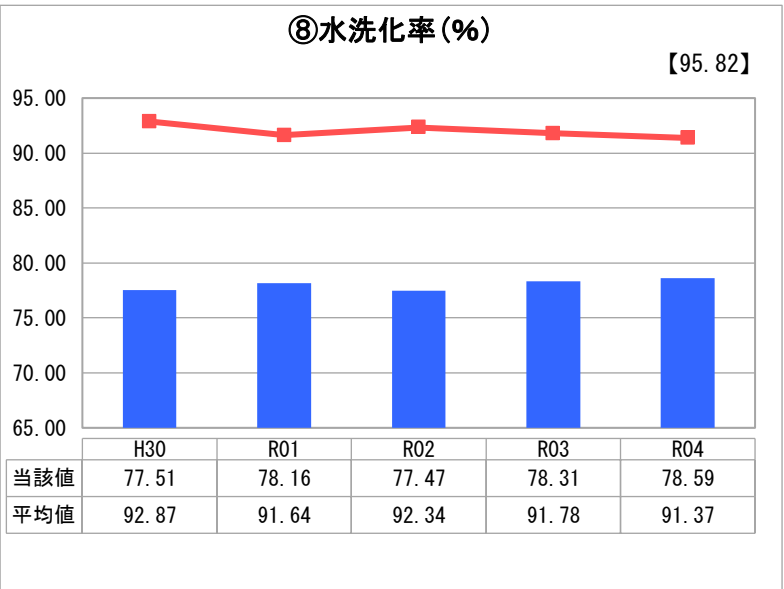
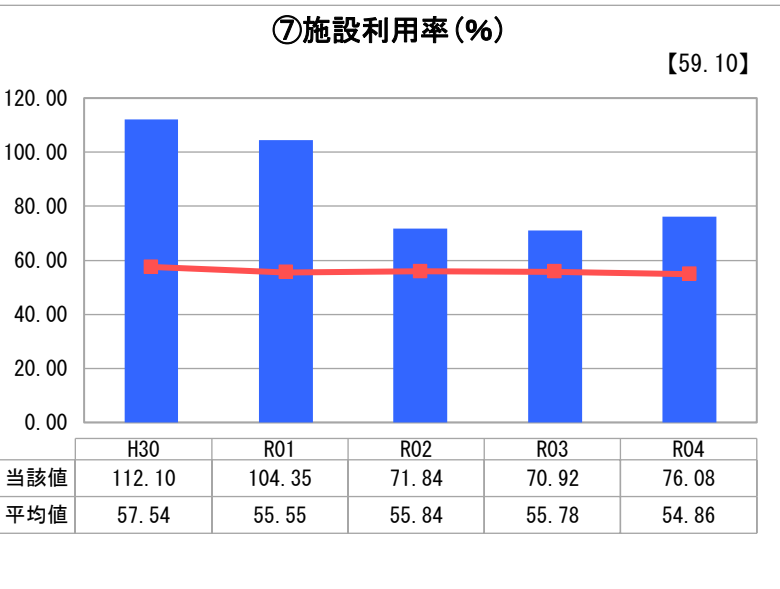
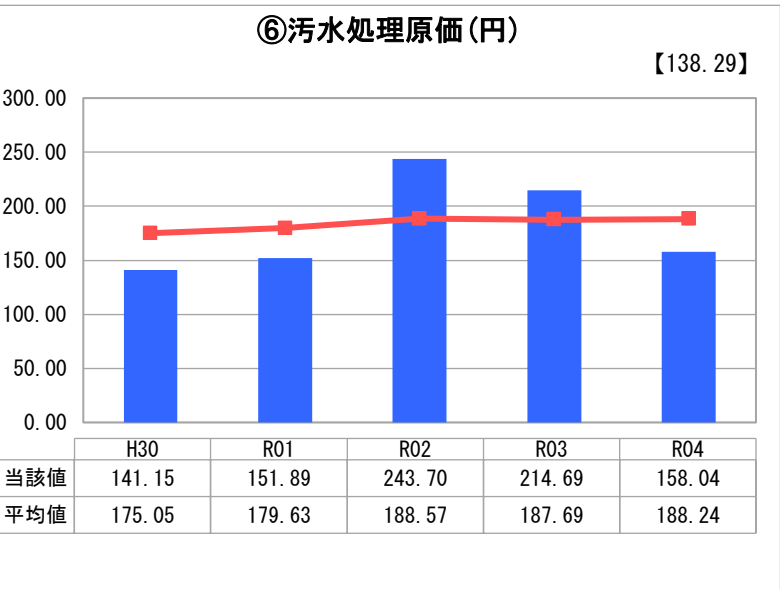
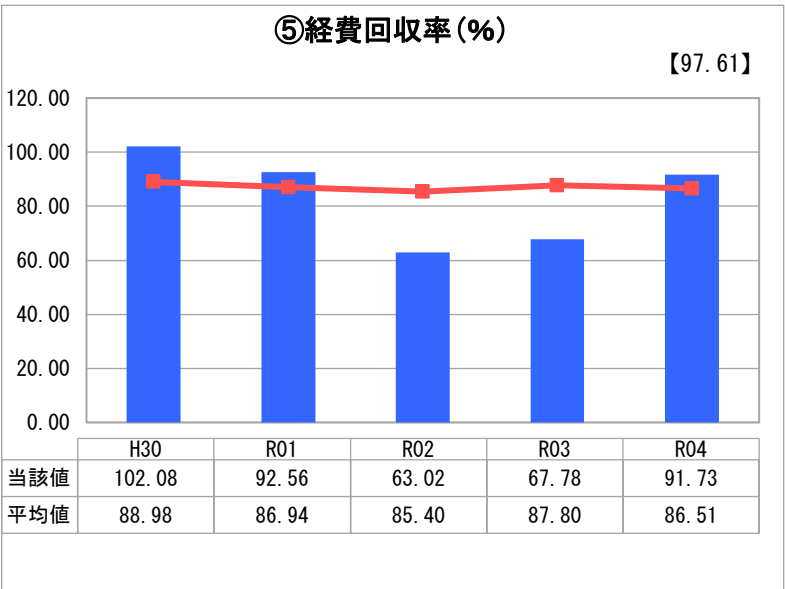
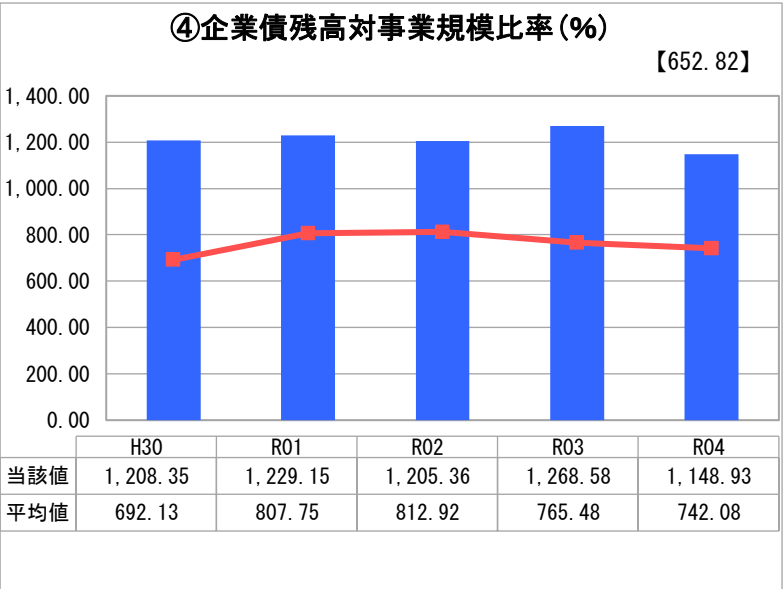
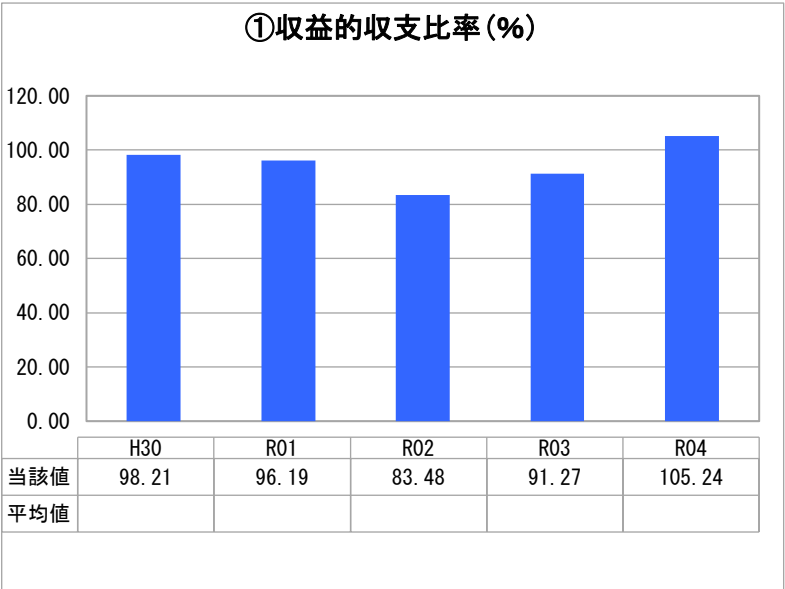
熊本県 阿蘇市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	26.67	57.74	2,585

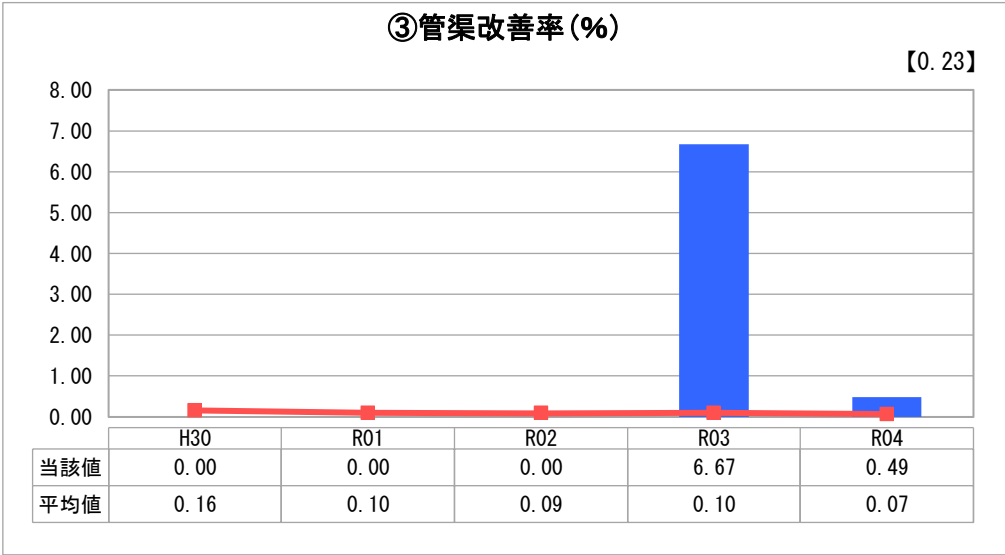
人口（人）	面積（km ² ）	人口密度（人/km ² ）
24,751	376.30	65.77
処理区域内人口（人）	処理区域面積（km ² ）	処理区域内人口密度（人/km ² ）
6,589	3.98	1,655.53

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率について
令和4年度は前年度から13.97%上昇し100%を超えおり、現時点では経営は順調に推移しているが、今後の施設更新等に備えた対策は継続していかなければならない。

④企業債残高対事業規模比率について
類似団体平均値を上回っているのは、これまで企業債を主な財源として事業を推進してきたことによるものである。今後も、未普及対策や終末処理場の耐震・改築工事を予定しており、使用料金の見直しが必要な状況となっている。

⑤経費回収率について
熊本地震に係る経費がようやく落ち着きを見せたことから前年度より23.95%上昇しているものの、汚水処理に係る経費を使用料で賄えている状況ではないため、更なる経費削減等に取り組む必要がある。

⑥汚水処理原価について
類似団体平均値以下の数値ではあるが、後は人口減少や節水対策等に伴い年間有収水量も減っていくことが予想されるため、接続率を上げるなど、有収水量を増やす取り組みを充実させるべきである。

⑦施設利用率について
全国の平均よりも以前より高く推移しているが、これは不明水によるものであるため、管路点検調査を行う等、不明水対策を継続して行っている。

⑧水洗化率について
微増傾向にはあるが、類似団体平均値及び全国

2. 老朽化の状況について

③管渠改善率について
現在の管路布設延長は75kmであり、そのうち布設後25年を超える管渠が32km（43%）となる。平成24年度に策定された長寿命化計画に基づき、平成24年・平成25年・平成26年の3カ年で1.7km（2.3%）の老朽管路の更新を行った。

令和3年度より、ストックマネジメント計画において管路の調査を行っており、健全度、不具合の兆候等を確認し、その結果に基づき修繕・改築工事を実施している。

このように、定期的な点検・調査を行う事により、ライフサイクルコストの最小化や計画的な予防保全による安全性の確保に努めたい。

全体総括

人口減少と節水対策に伴う利用料金の減収、処理場改築工事に伴う汚水処理費の増加が予想され、今後、経営状況は厳しさを増すことが懸念される。

このため、経営戦略を随時見直しながら、老朽化した施設を計画的に更新し、使用料金等の見直し等を進める必要がある。

また、令和6年度から公営企業会計へ移行することから、経営状況をよりの確に把握し、健全な経営に努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。